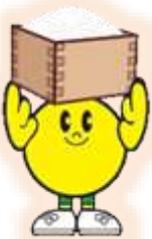


けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。 「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する
情報をお知らせします～



「天のつぶ」は粒ぞろい良好、「里山のつぶ」は噛みごたえバッチリのお米だよ。美味しいからみんな食べてね！



秋空に映える黄金色の稲穂
福島市水原地区の水田

「平成30年度県北地方植樹祭」が開催されました。

平成30年10月13日(土)、福島市飯坂町「大作山」において、「平成30年度県北地方植樹祭」が福島市と福島市緑化推進委員会の主催により開催されました。

昨年、7年ぶりに再開した国見町での県北地方植樹祭を引き継ぎ、今年度は「育てよう、ぼくの、わたしの、明日の森を」をテーマに、美しい四季の訪れを野鳥のさえずりと眺望とともに楽しむことができる「大作山」で、さわやかな秋空のもと、福島市の5つの緑の少年団、地元飯坂小学校及び県北地方の緑化推進委員会関係者合わせて約200人の参加者が、野鳥などが好むエゴノキ、ヤマザクラ、エノキを720本植栽しました。また、イロハモミジの記念植樹を行いました。

植樹祭に併せて、伐採見学、丸太切り、自然遊び、木工クラフト、スタンプラリー、食育(森のめぐみであるキノコ汁、ふくしまの水の提供)など森林・林業を学び、触れ合う機会が設けられ、参加した小学生達は楽しみながら森林の大切さを体験していました。

これからも関係者が一体となり、今年6月に開催された第69回全国植樹祭の理念を引き継ぎ、緑豊かなふるさと再生への思いを込めた植樹活動など未来へとつなぐ希望の森林づくり活動を進めていきます。
(森林林業部)



広葉樹植樹の様子



参加全員で記念撮影

担い手法人のライスセンターが完成・稼働しました！

平成30年9月20日(木)、大玉村大山字谷地において、あだたらドリームアグリ株式会社のライスセンターが完成し、関係者向け内覧会と安全祈願祭が行われました。

あだたらドリームアグリ株式会社は谷地地区の集落営農組織を前身として、平成27年10月に地域の土地利用型農業の継続と経営の発展・拡大を目的に設立されました。人・農地プランの中心経営体として、地区の水田の大半を集積して稲作経営に取り組むとともに、園芸品目の導入や米の加工販売も行い、経営の安定を図ろうとしています。

今回、ライスセンターが完成したことにより、それまで役員等の施設や機械を借りて行っていた収穫・乾燥調製作業が集約され、作業効率の向上と処理能力の増強を図ることができました。

また現在、同法人はICTを活用した機械やほ場管理システムなどを導入した実証事業にも取り組んでおり、稲作経営の効率化・省力化につなげることを目指しています。

拠点となるライスセンターの整備と実証事業の取組が、地域農業の発展に貢献することが期待されます。

(安達農業普及所)



ライスセンター外観



安全祈願祭の様子

「くだもの試食懇談&商談会」が開催されました！

平成30年9月26日(水)、福島市の「ウィル福島アクティおろしまち」において、福島県果樹経営者研究会主催による「くだもの試食懇談&商談会」が開催され、会員や県内の果樹加工業者、製菓業者等が参加しました。

会の前半は、福島市内のパン屋さんや洋菓子店が開発した、県産くだものを使ったデニッシュやプリンを試食しました。りんごやぶどう、なしなどのくだものが使われた試食は、来場者に大好評でした。

後半は新種や珍しい種類のくだもの試食が行われ、来場者は様々な種類のぶどうを食べ比べたり、10月に収穫適期となる「シーエックス」というももの品種について生産者に質問したりしていました。りんごやなしの試食も用意され、県産くだもの種類の多さに驚かされました。

普段は直接話をする事のない生産者と小売業者・食品業者が直接対話するよい機会になったかと思えます。

(企画部)



県産くだものを使用したパンの試食品



たくさんの種類のくだものを見入る参加者



豊富な種類のぶどう



極晩生のもも「シーエックス」

専門家を招き「農家民宿モニターツアー」を開催しました！

平成30年9月27日(木)～28日(金)、二本松市東和地域において、「農家民宿モニターツアー」が開催され、県内外の民泊に関わる専門家(アドバイザー)4名が参加しました。

「田舎暮らし」ライターや旅行業関係者、移住促進事業関係者をモニター宿泊に招き、当地域の農家民宿を体験し、現状について理解を深めてもらうと同時に、その魅力と課題や改善点などの意見をもらい、今後の集客増加と地域の活性化を図ることを目的にNPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の協力のもと、当事務所が実施したものです。

初日の9月27日(木)は、アドバイザー毎に、4軒の農家民宿に分宿し、各農家民宿で農産物の収穫や選果等の農作業体験を行い、その後はオーナーとの懇談と情報交換を図っていただきました。

翌28日(金)には、宿泊した以外の農家民宿についても、各1軒を訪問し取組状況について聞き取り調査を行い、当地域の多様な実態について確認いただきました。

その後アドバイザー同士で情報交換を行い、午後からは、調査協力いただいた農家民宿も交えての意見交換会を行いました。アドバイザーからはモニター宿泊結果について報告があり、東和地域の景観や営みの多様さ、歴史や風土についての魅力が再確認され、地域としての連携を深めていくことの重要性や、農家民宿をビジネス的側面から再考していく必要性や手法等についての提言をいただきました。

今回のモニターツアーのアドバイザーからいただいた意見を反映させ、県北地方の農家民宿の魅力向上につなげていきたいと思っております。

(企画部)



農家民宿オーナーから説明を受ける



2日目の農家民宿(レストラン)での調査



しいたけ収穫の農業体験



アドバイザーと関係者による意見交換会

「けんぽく6次化ミーティング第1回交流会」を開催しました！

平成30年10月3日(水)、二本松市の安達公民館において、「けんぽく6次化ミーティング第1回交流会」を開催し、会員など約30名が出席しました。

午前の第1部では、「食品衛生と関係法規」と題した県北保健福祉事務所の職員による講義、「地域産業6次化への挑戦」と題した株式会社阿部農縁(須賀川市)の寺山佐智子氏による事例発表があり、その後にグループワークを行いました。

午後の第2部では、二本松市のケーキ屋さん「スイートハウス」のオーナーパティシエール、浅川めぐみ氏を講師とした調理実習が行われ、トマトのジャムや、りんごの甘煮などを一から作った後、2種類のケーキを完成させました。

参加者は、他の参加者の6次化への取組を聞いたり情報交換をしたりして、有意義な時間となったようでした。

当事務所としましても、県北地方の地域産業6次化を発展させていくために、引き続き支援を行っていきます。

(企画部)



寺山氏による事例発表



グループワークの様子



浅川氏(中央)を講師とした調理実習



「トマトのドルチェ」と「林檎のチーズヴェリーヌ風」

第4回もも・りんご栽培基礎セミナー先進地視察研修会を開催しました！

平成30年10月5日(金)に当事務所主催で、「第4回もも・りんご栽培基礎セミナー先進地視察研修会」を開催しました。今回のセミナーでは、6次化産品・加工品における先進的な取り組みや、複合経営について県内2事業者を視察研修しました。参加者は、セミナー受講生9名と関係機関を含め計19名となりました。

まず、福島市荒井の「株式会社岡昇」を訪問し、岡崎昇代表取締役から、県産果樹による加工品(主にドライフルーツ)の取組の経緯について説明を受けました。岡崎代表取締役は約20年前に起業し、その後、東日本大震災の直前に加工品の製造・販売を開始しましたが、風評被害等により売り上げがなかなか伸びない時期を経験しました。そこで、「自分が納得できる加工品を造りたい」と事業展開し、昨年から東京銀座に直営店を出店するなど、販売額を伸ばしてきているとのことでした。

次の、石川町赤羽の「大野農園株式会社」では、大野栄峰代表取締役から、農業経営に対する考え方や消費者目線での事業展開について説明を受けました。農業収入が低い時期にいかに収入を得るかの発想を具現化した「ももの花見BBQ」や「剪定枝を利用した焼きりんご」などの各種イベント、お菓子やお酒等の加工品販売の取り組みなど、常時雇用を取り入れた会社経営へ転換するための新たな視点で農業経営を考えることの必要性について説明がありました。また、協力し合える仲間づくりがとても重要であることについてもお話がありました。

参加者からは、「漠然と描いていた6次化を取り入れた農業経営について、具体的に考える機会になった」「新たな農業経営の展開を考えなければならない」などの声が聞かれ、有意義なセミナーとなったようでした。

当事務所としても、6次化に関する各種情報提供や取り組みの支援など、経営感覚に優れた新たな果樹経営者の育成のため継続的な支援を行っていきます。

(農業振興普及部)



(株)岡昇の岡崎代表取締役による取り組み説明
※最右が岡崎代表取締役



販売店舗内で説明する大野農園(株)の大野代表取締役

国見町が「稲刈り親子体験講座」を開催しました！

平成30年10月8日(月)、国見町小坂の水田において、国見町生涯学習課主催の平成30年度国見町公民館町民講座として「お米について知ろう『稲刈り親子体験講座』」が開催され、国見町立国見小学校の児童と保護者あわせて23名が参加しました。本講座は、国見町で水稲を大規模に栽培している小坂アグリ株式会社(以下「小坂アグリ」という。)が全面協力したものです。

はじめに、小坂アグリの朽木勝之代表取締役から「農業の中で、収穫はとても楽しいことのひとつ。今日は、稲刈りを楽しんでほしい。」とあいさつがありました。その後、参加者は水田に移動して、小坂アグリ・国見町生涯学習課・ふくしま未来農業協同組合同国見営農センター・当農林事務所伊達農業普及所の職員から指導を受け、手際よく稲刈りを進め、刈り取った稲を束ねて天日干し用の棒ぐいに積み上げる作業まで行いました。誰一人ケガをすることもなく、親子で楽しみながら稲刈りを体験できました。

昼食は、小坂農村総合管理センターにて小坂アグリが生産した新米の「天のつぶ」や具だくさんの豚汁を美味しくいただきました。食後には、当普及所の佐久間技師が「お米について」の講話を行い、参加者はお茶碗1杯分や田んぼ1枚からできるお米の量の話などを興味深そうに聞いていました。参加者は、晴天の下での稲刈り作業や美味しい新米の昼食、楽しい講話などを通してお米への関心が高まった様子でした。

当普及所としましては、食育活動への支援を含めて、引き続き地域農業の振興に努めていきます。

(伊達農業普及所)



親子で稲刈り



みんなで一緒に記念撮影



おいしい昼食



講話「お米について」

平成30年度フレッシュ農業ガイド講座を開催しました！

平成30年10月15日（月）、当事務所主催の「平成30年度フレッシュ農業ガイド講座」を開催し、福島県立福島明成高等学校生物生産科栽培飼育コース2年生35名と教員2名が出席しました。

この講座は農業高校の生徒の就農意欲向上のために毎年開催しているもので、今年度は主にGAPの取り組みについて研修をしました。午前には本宮市の御稲プライマル株式会社、午後からは福島県農業総合センター農業短期大学校で研修を行いました。

御稲プライマル株式会社では、GAPの考え方を取り入れた施設内外の整理整頓や、労働者の労働安全確保、農薬の保管方法等について学習しました。また、消費者のニーズに合わせた料理米のブレンドや、6次化による経営戦略についてお聞きしました。農業短期大学校では、農業者を育成する教育機関としてのGAPの取り組みや牛へのストレスが少ない畜産施設を見学しました。生徒からは、「生産から販売までの細やかな管理やルール作りが勉強になった」、「充実した施設・設備に驚いた」と感想がありました。

当事務所では、今後とも農業高校の生徒の就農意欲向上やGAP認証に対する支援を行っていきます。

（農業振興普及部）



御稲プライマル株式会社の商品説明の様子



御稲プライマル株式会社の施設見学の様子



農業短期大学校のGAPの取り組みの説明の様子



農業短期大学校の牛舎見学の様子

平成30年度福島県きのこ品評会が開催されました！

平成30年10月19日(金)、郡山市の福島県林業研究センターにおいて、「福島県きのこ品評会」が開催されました。20日(土)と21日(日)に開催された「第43回林業祭」の併催行事として、きのこの生産振興を図り、きのこの安全性を広く周知し、需要拡大と品質向上を促進することを目的としています。

生しいたけ(原木・菌床)、乾しいたけ、なめこ及びひらたけの各部門で出品総数141点の出品の中、県北地方から33点の出品があり、下記のとおり4名の生産者が受賞されました。

林業祭の開催中、2回に分けて実施された出品物の販売会には多くのきのこファンが訪れ、好評を博していました。

福島県知事賞(生しいたけの部 原木栽培部門) 本宮市 國分進さん

福島県きのこ振興協議会会長賞(生しいたけの部 原木栽培部門)

伊達市 大橋茂美さん

(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞(乾しいたけの部) 福島市 山田誠さん

福島県きのこ振興協議会会長賞(なめこ・ひらたけの部) 川俣町 本田隆さん

生産者の皆様、出品ありがとうございました！！

受賞者の皆様、おめでとうございます！！

(森林林業部)



國分さんの生しいたけ



大橋さんの生しいたけ



山田さんの乾しいたけ



本田さんのひらたけ



会場の様子

大枝コスモス直売所の設立 30 年をお祝いしました！

平成 30 年 10 月 19 日(金)、伊達市のふくしま未来農業協同組合梁川総合支店みらいホールラブルにおいて、「大枝コスモス直売所設立 30 年目を祝う会」が開催され、直売所出荷会員や関係機関からの来賓を含め約 50 名が出席しました。

大枝コスモス直売所の酒井実会長のあいさつ後、伊達農業普及所依田所長等が来賓祝辞を行い、これまでの長きに渡る活動を讃えました。その後、酒井会長からこれまでの 30 年のあゆみが報告されました。

大枝コスモス直売所は、平成元年に旧梁川町東大枝地区の農業後継者会により無人販売から始まった活動でしたが、有人販売、通年営業等と店舗運営を発展させ、会員数や商品数を増やし、絶えず時代の変化に対応しながら、伊達地域の直売所の先駆けとして活動してきました。

この間、大きな直売所や道の駅が近隣にできたり、原発事故による出荷制限や風評被害等があったりと苦労もありましたが、新たな設備投資や会員の意欲の向上を図りながら、現在では売上額が 8,000 万円を超える直売所に発展しています。

今後も、40 年、50 年と福島県産農産物のおいしさを伝える発信基地として、地域の地産地消の要として、益々発展することが期待されます。

店頭では、特に果樹の品揃えが豊富で、知らない品種に出会うかもしれません。皆さんも、お近くにお立ち寄りの際は、ぜひ御利用ください。

当事務所としましても、地域活性化と地産地消の推進のため、引き続き直売所活動を支援していきます。

大枝コスモス直売所

伊達市梁川町東大枝字町頭 1-2
(ふくしま未来農業協同組合
大枝支店隣り)



(伊達農業普及所)



当事務所伊達農業普及所依田所長の祝辞



大枝コスモス直売所の外観(コスモスの少女が目印)

新規就農者受入れ取組みについての研修会を開催しました！

平成30年10月9日(火)、二本松合同庁舎会議室において、当事務所主催による「新規就農者受入れ取組みについての研修会」を開催し、関係機関担当者24名が出席しました。

当地域では、平成30年8月に市村、農業委員会、全農、JA、県の担当者と構成する「安達地区新規就農支援チーム」を立ち上げており、県内の優良事例を研修し活動の参考とするため、本研修会を企画しました。安達農業普及所遠藤所長より、担い手の育成・確保に活かせるよう関係機関での連携が大切である、との挨拶があり、続いて「二本松市東和地区における新規就農者受入れの取組について」と題し、特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会前理事長の武藤一夫氏(普及指導協力委員)に講演いただきました。武藤氏からは、地域の活性化のためには地域の持続性を高めること、そのためには、新規就農者に過度の期待をし過ぎず地域全体で見守っていくこと。また、ゴールや完成のない農業の楽しさ、消費者に自分の作った生産物が美味しいと言われることの喜びを、次世代へバトンタッチしていくべきである、とのお話がありました。実際に武藤氏が経験した新規就農者定着や地域内での6次化事例の話もあり、参加者も理解が深まった様子でした。

当事務所としましても、引き続き新規就農者の確保・育成へ向けた支援を行ってまいります。

(安達農業普及所)



武藤氏の新規就農受け入れ取組みに関する講演



真剣に話を聞く参加者の様子

平成 30 年度伊達地域農業普及推進懇談会を開催しました！

平成 30 年 10 月 24 日(水)、当事務所伊達農業普及所において、管内市町、JA ふくしま未来伊達地区本部、伊達果実農業協同組合、伊達地方農業士会、各市町認定農業者会、福島県普及指導協力員などを構成員とする「平成 30 年度伊達地域農業普及推進懇談会」を開催しました。

懇談会に先立って、担い手の育成及び第三者認証GAP取得の推進に関して、国見町の「くにみ農業ビジネス訓練所」と桑折町にある「はねだ桃園」の現地視察を行いました。

「くにみ農業ビジネス訓練所」では、国見町産業振興課の丹治芳廣主任主査より、トマト養液栽培ハウス、研修・管理施設、実施している研修内容及び国見町の就農支援の取組について説明をいただきました。

「はねだ桃園」では、代表の羽根田幸将氏から、GLOBAL G.A.P.など4種類のGAP認証を取得するまでの経過や、認証取得に取り組んだ効果などについて説明していただきました。

懇談会では、県伊達合同庁舎において、平成 30 年度の普及指導計画6課題について中間活動実績を説明した後、意見交換を行いました。出席者からは、担い手の確保や農業の振興方策などについて、多くの意見と助言をいただきました。今後、御意見を踏まえ、効果的かつ効率的に普及指導活動を展開していきます。

(伊達農業普及所)



「くにみ農業ビジネス訓練所」の養液栽培トマトハウス



「くにみ農業ビジネス訓練所」の露地野菜ほ場



「はねだ桃園」のGAP認証基準に則った資材保管庫



懇談会の様子

遠藤ヶ滝遊歩道(大玉村)の整備が完了しました！

爽りの秋を迎え美味しい農産物に加え森林は美しい紅葉で彩られます。

このたび大玉村で、森林環境税を財源とする基金を活用した遠藤ヶ滝遊歩道の施設整備工事が完了したので御紹介します。

遠藤ヶ滝は、県道30号本宮土湯温泉線からふくしま県民の森フォレストパークあだたら方面に向かい、「遠藤ヶ滝」の案内に従って進むと駐車場に着きます。

平成28年度から本年度にかけて延長1,400mの遊歩道等を整備しました。駐車場から本流を渡る延長32mの入口にある歩道橋は、欄干等をガラス質コーティング加工した県産スギ材で制作し、デザインや耐久性にも優れた仕上がりとなっています。さらに上流に進むと自然溪流にマッチした遊歩道橋3基と危険箇所の歩行をサポートする木柵や木製階段が整備されています。

駐車場から遠藤ヶ滝までは片道30分程度ですので、安達太良山の裾野で是非紅葉と溪谷美をお楽しみください。

(森林林業部)



駐車場から本流を渡る歩道橋



ガラス質コーティングされた木製欄干



新たに整備された木製階段



遠藤ヶ滝

Hot フルーツ！プロジェクト“桃”、5店舗が販売継続します！

平成30年9月22日(土)～10月31日(水)まで期間限定で販売された8店舗10種類のHot フルーツ！プロジェクト“桃”商品ですが、5店舗において販売継続となりました！

Hot フルーツ！なら、桃をおいしくこれからも食べられます。この機会にぜひHot フルーツ！を召し上がれ！

イゾラフェリーチェ

福島市置賜町8-8 パセナカミッセ2階

☎ 024-523-5510 HP<http://isola-felice.jp/>



☆エゴマ豚肩ロースと白桃のタリアータ☆



☆白桃のサヴァイオーネグラタン☆

お店の名前はイゾラ＝「島」、フェリーチェ＝「幸福」というイタリア語、つまり「福島」という意味です！福島県産の材料にこだわって作るシェフが作った「エゴマ豚肩ロースと白桃のタリアータ」は桃のソースをかけてお召し上がりください。デザートとしておいしい「白桃のサヴォイアーネグラタン」は大人数の場合は1人分ずつに分けて出してくれますので、予約時にお伝えください！

農家カフェ 森のガーデン

福島市飯坂町平野森前27-3 ☎ 024-541-4465

HP<https://www.facebook.com/MORIGARFUKUSHIMA/>

森のガーデンさんでは、「ももカレー」はそのまま、桃ピザは「りんごピザ」になって11月からも販売します！

桃のワイン煮がたっぷり溶け込んだ、桃とカレーが相性抜群の「ももカレー」はもちろん、これから旬を迎える自家農園で採れたりんご「陽光」を1個～1個半とふんだんに使い、自家製「りんご蜜」をたっぷりかけた「りんごピザ」もオススメです！



☆ももカレー☆



☆りんごピザ☆

道の駅 国見あつかしの郷

伊達郡国見町藤田字日渡二18-1 ☎ 024-585-2132

HP <http://www.michinoeki923.com/>

道の駅国見あつかしの郷さんの「ももたんカフェ」では11月末まで「桃ピザ」を販売継続します！国見町産のもも「あかつき」と杏を自社の加工場でコンポートとドライフルーツにしたものを使用しています。

桃はなんと贅沢に1つ分！桃の甘さと杏の酸っぱさが絶妙です。秋の行楽シーズン、ドライブの途中にぜひ道の駅国見へお立ち寄りください。



☆桃ピザ☆

Melon de melon

福島大町店：福島市大町8-20 プリティ大町ビル1階 ☎ 024-503-9161

福島鎌田店：福島市鎌田字下釜 16-1 ☎ 024-573-7448

HP <http://www.melon-de-melon.com/>

Melon de melonさんも11月末まで、「福島県産桃とカスタードのデニッシュ」を販売継続します！

福島市で採れた桃を、カスタードクリームとサクサク生地のデニッシュに合わせた1品！テイクアウトのお店なので、手軽にいただけます。沢山の種類のメロンパンと一緒に、ランチやおやつにいかがですか？



☆福島県産桃とカスタードのデニッシュ☆

サイトウ洋食店

福島市栄町9-5 栄町清水ビル2階

☎ 024-521-2342 HP <http://saitoyosyokuten.com/>

JR福島駅東口から徒歩3分の隠れ家的な洋食店。ももがあるさんの「桃ふる」を使った「桃と自家製リコッタチーズのピザ」をディナータイムに提供します。新商品、「ゴルゴンゾーラのペンネ “桃ふる”とご一緒に」もオススメです！



☆桃と自家製リコッタチーズのピザ☆

各店舗の詳しい情報はそれぞれのHPを御覧ください！



第2回「おいしい ふくしま いただきます!」キャンペーンを開催しました!

平成30年10月28日(日)、福島市公設地方卸売市場の「第35回わくわく市場まつり」と同時開催で、第2回「おいしい ふくしま いただきます!」キャンペーンを開催しました。

このキャンペーンは、県産農林水産物のおいしさや安全性を県民の皆様にも再確認していただき、県内消費の拡大、地産地消の推進を図るため開催したものです。

当日は、旬の県産りんごやぶどう、柿などの県産くだものや、相馬原釜漁港で水揚げされた水だこや小女子、しらすを試食品として提供しました。また、「米1合(150g)重量当てゲーム」を行い、参加者には県北管内の6次化商品と福島県産オリジナル水稲品種「天のつぶ」の新米をプレゼントしました。「福島県のくだものや水産物はとてもおいしい!」、「天のつぶの新米を早く食べたい!」などの声が聞かれ、来場者には大好評でした。

また、県北管内の地域産業6次化事業者3社が参加し、テスト販売を行い、参加者からは「PRにつながった。」との声をいただきました。販売技術の改善点や自社商品のターゲット層を認識できる場となったようです。この機会が今後の販売につながることを期待しています。

第3回のキャンペーンは、11月11日(日)に道の駅安達上り線で行います。詳しくは、次頁を御覧ください。

(企画部)



ミススピーチによるくだもの試食配布



「米1合重量当てゲーム」でニアピン!



「小さいお魚おいしいね」



6次化商品販売ブース

第3回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン開催予告！

前頁の第2回に引き続き、平成30年11月11日(日)には、二本松市の「道の駅安達上り線」において第3回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催します！

■日時

平成30年11月11日(日)
10:00~15:00

■場所

道の駅安達上り線 大型テント
(住所：二本松市下川崎字上平 33-1)

■問い合わせ先

県北農林事務所 企画部
(電話：024-521-2596)
(企画部)



注意！！

「野生きのこ」は出荷が制限されています！

野生きのこのシーズンですが、県内では中通りと浜通りの全部、会津地方の一部で採取された「野生きのこ」は、放射性物質の影響により出荷が制限されています。

このため、自主検査で「基準値(100Bq/kg)以下」であったとしても出荷・販売はもちろん知人等への譲渡は行わないでください。また、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないよう協力をお願いします。

なお、出荷制限がされていない、湯川村、金山町、南会津町、檜枝岐村の4町村で採取したきのこを販売する際は、県のモニタリング検査の実施が済んでいることを確認してから出荷してください。

また、「栽培きのこ」にあつては産出地によっては出荷が制限されている品目がありますので、最新の情報を福島県ホームページなどで確認いただくか、当事務所にお問い合わせください。

■福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報URL <https://www.new-fukushima.jp/>

福島県では、各地方の森林組合と連携して山菜や野生きのこの出荷制限解除にむけた調査事業を進めています。検体の提供に御協力をお願いします。

■問い合わせ先

福島県県北農林事務所 森林林業部林業課
電話 024-521-2632 FAX 024-521-2851



(森林林業部)

達南地区生活研究グループ連絡協議会は女性農業者の会員を募集中！

達南地区生活研究グループ連絡協議会は、現在、会員数が15名、60～70代の女性が中心となって活動しています。活動内容は、地元食材を利用した6次化商品開発、直売所運営のための勉強会、各種視察研修などで、会員同士仲良く切磋琢磨し合っています。近年、会員数の減少と高齢化がみられるため、協議会活動の維持発展と地域産業6次化振興に協力してくれる、福島市飯野町、川俣町の女性農業者を大募集しています。

興味のある方は、ぜひ下記まで御連絡ください。

■問い合わせ先

県北農林事務所農業振興普及部

電話 024-521-2609

(農業振興普及部)



米粉を用いた調理実習



直売所視察研修

「6次化相談カウンター マッチング支援強化週間」を実施します！

「6次化相談カウンター」では、地域産業6次化に関する「悩み、課題、疑問、相談」をお聞きし、専門家派遣、補助事業の御紹介、申請資料作成へのアドバイスなどを行っております。

本年度より、10～11月はマッチング強化月間となりましたので、けんぽく6次化ミーティングとして、マッチング支援強化週間を設けさせていただきました。

**期間：平成30年11月12日（月）
～16日（金）
9：00～17：00**

「こんなの作りたいけど、どこかで加工してもらえないかな？」という加工先の悩みなど、地域産業6次化に係わる御相談を何でも受けつけてお

けんぽく6次化ミーティング
相談カウンター
マッチング支援強化週間

6次化支援員を派遣し、特に加工品の発注先をお探しの方の悩み解決をお手伝いします。

対象者	福島県東北地域にお住まいの方、又は、関係を持つ方。
事前予約制	相談内容を相談申込用紙に記載してFAX又はメールされるか、その内容を電話にてお伝えください。
相談場所	福島県東北農林事務所 (〒960-8670 福島市柳町2-16 県庁北庁舎5階)
受付時間	9:00～17:00
費用	無料

開催期間
平成30年11月12日～平成30年11月16日

その他
相談窓口は強化週間に限らず開設されていますので、この期間外でも、加工先をお探しの方、地域産業6次化に関する「悩み、課題、疑問、相談」がありましたら、お気軽にご相談ください。

予約受付

TEL: 024-521-2596
FAX: 024-521-2850
メールアドレス
kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

りますので、お気軽にお申し込みください。6次化支援員とともに課題解決のお手伝いをさせていただきます。

お申し込みについては企画部地域農林企画課（電話：024-521-2596）までお電話いただくか、下記 URL を御覧ください。

（企画部）

「ジュースと果実酒醸造に向けた勉強会」を開催します！

平成30年11月7日（水）、けんぽく6次化ミーティング主催の「ジュースと果実酒醸造に向けた勉強会」を県庁内で開催します。ジュース製造や果実酒製造に興味のある方、他の製造者さんと話してみたい方、ぜひ御参加ください。



ジュース製造と果実酒醸造に向けた勉強会

くだもの王国福島を代表する東北地域の地域産業6次化商品として、ジュース製造や果実酒醸造を望む声が多々聞かれます。

そこで、県北地方の農業者を対象にジュース製造及び果実酒醸造に関する勉強会を下記のとおり、開催します。

「ジュース・果実酒を作ってみよう！」「製造・醸造の仲間がほしい！」という方々、一緒に6次化の可能性を探りませんか？

今回意見を参考に、今後も視察や研修など継続的な活動とすべく検討していきます。

日時	平成30年11月7日（水） 13:30～16:30	
場所	福島県東北地方振興局 会議室 福島市杉妻町2-16（北庁舎4階）	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュース製造と果実酒醸造の基本 （農産品加工支援センター） ・日本ワインについて～ワインと市場ニーズ等 （メルシャン東北日本支社） ・地域ワインに期待すること （日本ワイン専門ワインバー カミヤファクトリー） ・意見交換と交流 	
対象者	東北地域の果物を活用したジュース製造、果実酒醸造、販売に興味のある方	
参加料	無料（当日は、名刺をお持ちください。）	
参加申込み	福島県東北農林事務所 企画部地域農林企画課 電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850 電子メール kikakuaf01@pref.fukushima.lg.jp	
申込先・問い合わせ先	裏面の参加申込み用紙に記入し、 平成30年11月5日（月）までに 電話、又は裏面申込み用紙にてお申し込みください。	

■「6次化相談カウンターマッチング支援」及び「ジュースと果実酒醸造に向けた勉強会」のお申し込みは・・・「県北地方の地域産業6次化」URL

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/kikaku-6jika.html>

※用紙をダウンロードして、県北農林事務所企画部までメールまたはFAXでお申し込みください。

（企画部）

けんぼくの6次化の取組の紹介 有限会社 正栄堂 「食べると元気が出る、あんぽ柿タルト！」



伊達市五十沢地区発祥のあんぽ柿は、県北地方の特産品として親しまれています。震災後約2年に渡って加工自粛となり、昨年は震災前の8割程度の出荷量まで回復しましたが、未だ震災前の水準までは回復していません。

風評払拭やあんぽ柿振興のために、福島商工会議所や郵便局、JA ふくしま未来などで組織する「あんぽ柿タルト普及推進協議会」が設立され、賛同した福島市や伊達市の製菓店が「あんぽ柿タルト」を製造し、昨年は福島市や東京などで販売会を行いました。



「あんぽ柿タルト」をいつでもお店で買えるのは、福島市瀬上にある「正栄堂」です。菓子職人歴60年以上の斉藤社長の作る「あんぽ柿タルト」は柔らかくしっとりとしたタルト生地の上に半分に切ったあんぽ柿がのっけていて、あんぽ柿の食感やおいしさをそのまま味わうことができます。あんぽ柿は日持ちがしないため、お土産用にもなる商品を開発するのに苦労したと話す斉藤社長。「あんぽ柿タルトは、あんぽ柿を作る人と、菓子職人の思いが詰まった最高のお菓子！正栄堂のお菓子を食べて元気になりますよ。」と笑顔で話してくれました。

通年で販売していますので、生のあんぽ柿が食べられない季節も楽しむことができます。ぜひお立ち寄りください。



柿が珍しい地域への贈答用にも喜ばれます。



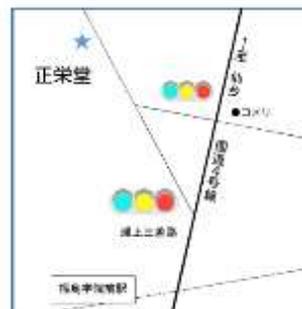
「良いお菓子を食べて元気になります！」と話す斉藤社長

●事業者データ

有限会社 正栄堂

〒960-0101 福島市瀬上町字本町 76-3

☎024-553-1017



編集・発行 福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

